



知床科学委員会 しんぶん

河川工作物 アドバイザー会議 No.2

河川工作物 アドバイザー会議って？

知床はサケ・マスの遡上に代表される海と陸のつながりが評価されて、世界自然遺産に登録されました。

その一方で、土砂災害を防ぐために造られてきたダムが、サケ・マスの遡上する障害にもなっています。

そこで、「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ・マスが遡上もできるように、各専門家が行政機関に対して、ダムの改良工事やサケ・マスの遡上調査について助言をしています。

今回の会議

2012年1月27日に今年度第3回目の会議が、札幌市内の北農健保会館で開催されました。

構成メンバー

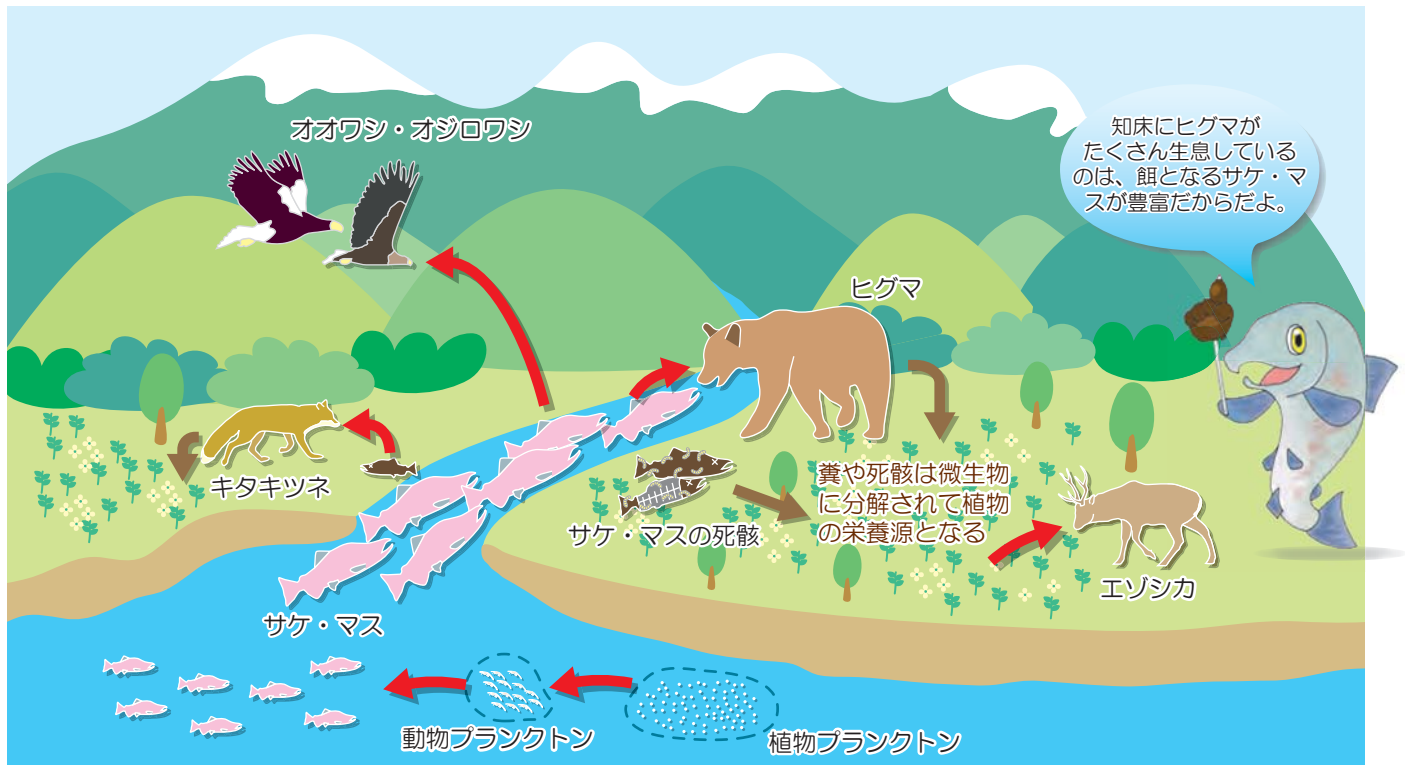
中村 太士【座長】	(北海道大学)	教授
帰山 雅秀	(北海道大学)	教授
小宮山英重	(野生鮭研究所)	所長
妹尾 優二	(流域生態研究所)	所長
丸谷 知己	(北海道大学)	教授
河口 洋一*	(徳島大学)	准教授
谷口 義則*	(名城大学)	准教授

※オブザーバとして特別に参加して頂きました。

必見!
TOPIC

海と陸のつながりって何？

川に戻ってきたサケ・マスはヒグマやワシのエサとなり、川岸に打ち上げられた死骸は土に還ります。サケ・マスは知床の海の豊かな栄養を陸に運ぶことで、海と陸をつなぐ役割を担っています。



▲ サケ・マスによる海と陸のつながり

これまで、ダムの改良効果を検証するためにサケ・マスの遡上調査を行ってきましたが、この調査は改良から3年後に終わることになっています。これからは、いつまでも知床の川にサケ・マスが遡上できるように、定期的に川の健康診断をする「長期モニタリング」をしていきます。

今回
話し合った
こと

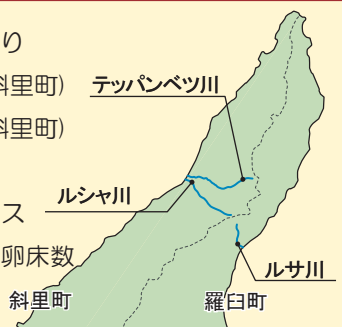
- サケ・マスに関する長期モニタリングについて
- チエンベツ川とイワウベツ川における遡上調査の結果について
- 今後の会議のあり方について

注目!

「長期モニタリング」では何をするの？

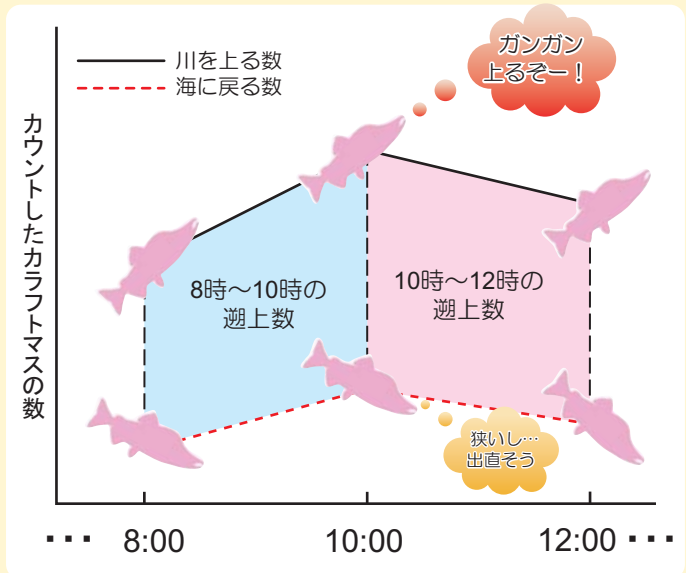
長期モニタリングでは、サケ・マスの数が減ってないか、どのくらいの栄養が海から陸に運ばれているのか、ダムの影響は抑えられているかといったことを評価するために、遡上数と産卵床数を調べます。

- 調査期間：2012年より
- 調査場所：ルシャ川(斜里町) テッパンベツ川
テッパンベツ川(斜里町)
ルサ川(羅臼町)
- 対象魚種：カラフトマス
- 調査項目：遡上数、産卵床数



遡上数は、川に上ってくるカラフトマスと海に戻るカラフトマスを河口で数えることで調べます。

今回の会議では調査方法について話し合いました。長く続けていく取り組みなので、まず試験的に実施して、さらに調査方法を検討する予定です。



▲ 1日間遡上数の推定例
川が混んでくると海に戻るカラフトマスもあります。川を上る数と海に戻る数の差(色塗り部分)が遡上数となります。

注目!

今年度の遡上調査について

前回のニュースレターでは、斜里町のイワウベツ川で改良を行ったダムの上流までサケ・マスが遡上していることを、速報でお知らせしました。

実は、改良工事を行ったイワウベツ川支流の赤イ川は酸性が強く水質がよくありません。そのため、赤イ川のさらに支流である、水の澄んだ白イ川まで遡上できるようになることを目標に工事を進めてきました。

今回の調査結果によると、サケ・マスは年々上流まで遡上できるようになり、カラフトマスについては白イ川まで遡上して産卵していることが確認されました。



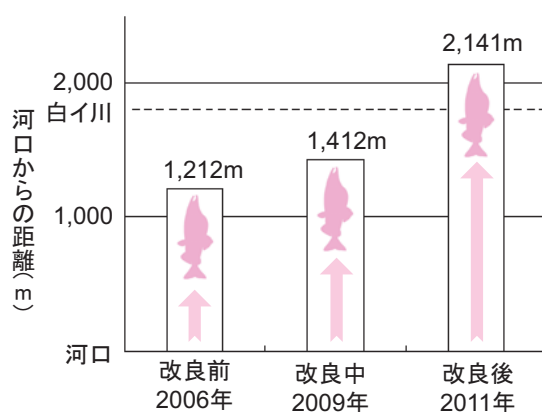
▲ 赤イ川(手前)と白イ川(奥)の合流点(斜里町イワウベツ川)

■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 企画調整部 保全調整課
〒064 - 8537
札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
ダイヤルイン：011-622-5231
FAX：011-622-5194



- 発行：林野庁北海道森林管理局
- 制作：株式会社エコニクス
- 発行日：2012年3月9日



◀ ダム改良による赤イ川でのカラフトマスの遡上境界の変化(2011年のデータは知床財団提供)。